

# 俳句コンクール

## 一般の部

### 大賞

ふるさとにまだ居るやうな昼寝覚

長根 芳夫

### 優秀賞

総代が塩飴配る溝後へ

春名 あけみ

三回忌あなたでしようか秋蛩

瀨口 サエ子

叱られて犬にあたる子山笑ふ

今村 幸代

動かねばそれと判らぬ目高の子

三吉 誠

### 審査員賞

今も辻ババヘラ売りの大日傘

尾関 英正

手袋を外して撫でる子の頭

今村 史恵

夕影の富士より高く草矢射る

竹浪 誠也

### 文学館賞

人生を決めし書物に風入れる

赤尾 楽暫

### 特別審査員賞

くるくるきゆるきゆる梅雨明けのカバの耳

井上 きうい

文学の川端通り蝉時雨

佐藤 淑子

ノブラで無人の棚の夏野菜

広江 典子

### 佳作

亀鳴くや効くと信じて飲むサプリ

大久保 なほ子

すれ違ふ人に草の香蛩の夜

車田 久子

曲りきてすぐ曲りゆく焼諸屋

宮部 高典

泣きやまぬ子に握らせて草の花

山本 あかね

手を上げて道譲り合ふ秋の風

貴田 雄介

栗拾ふ山の言葉を聞くやうに

星野 れい子

### 入選

連れ添ひて老いて異郷の遠花火

石井 金吉 雪吊りの縄千筋に弛みなし

部矢 祥子

晩学の望みは高し雲の峰

岩野 記代 雑魚寝して尽きぬ話や盆の月

友成 聖子

夫とめて言葉は要らず大夕焼

大地 静子 ドラマ見る妻の顔知る夏休み

美崎 安幸

夜のとぼり降りて纏るる恋蛩

本庄 準也 風鈴の音鳴り響く散歩道

井上 潤介

やわらかく闇を深める夕蛩

富澤 秀雄 天空の城の石垣夏深し

石川 芳己

蓮池や地獄あるかとのぞきこみ

鈴木 清志 抱けば直ぐ溶け出しさうな雪をんな

権守 いくを

森といふ大きな器石清水

宮島 敏明 シソーに遊ぶ父と子秋涼し

細井 かね子

花桐を仰ぎ郷関思ひけり

平野 暢行 自転車で坂登り切る白露かな

松島 容子

吸呑みにすこし新酒を加へけり

小山 尚宏 約束の目印なんじやもんじや咲く

川阪 潤子

夏の月星釣るごとく傾きぬ

谷本 良裕 池普請家出し子らも継ぎし子も

古曳 伯雲

子は都母はふるさと天の川

白井 道義 屑籠も遺品のひとつつ冬日差

西田 洋

母を連れ一等席の花火船

藤原 敏克 水走る社家の石橋燕子花

吉尾 薫

船着き場に旅の一座や康成忌

北川 宮子 音もなく紅葉づる楠公殉節地

杉浦 正夫

蝉の子やもぬけになりに大樹へと

藤本 恵子 柳の葉の守り賜る秋日和

原 茂美

秋晴れて耳成山の耳さがす

和田 康 もみぢ葉のつやめく古今伝授の間

岡山 裕美